

シンポジウム

脱原発社会は可能だ



基調講演

福島原発はいまどうなっているのか

小出裕章さん

(京都大学原子炉実験所助教)

パネルディスカッション

脱原発社会をどう創るか



吉原毅さん(城南信用金庫理事長)

瀬瀬あやさん(映画監督)

明峯哲夫さん(農業生物学研究室主宰)

小出裕章さん(京都大学原子炉実験所助教)

コーディネーター

大江正章(コモンズ代表/PARC代表理事)

3.11の東日本大震災以降、日本社会における最大の関心事は、「原発」と「エネルギー問題」です。7月に行なわれた朝日新聞の世論調査では、「脱原発」に賛成の人が77%を占め、その半分以上が10年以内に止めることを支持しています。世論は大きく変わったと言えるでしょう。しかし、政府や経済界の大半は、いまだに原発の稼働に固執し、成長信仰から抜け出せていません。

このシンポジウムでは、原発の危険性を訴え続けてきた小出裕章さんに、福島第一原発の現状と収束の見通しについてお話しいただいたうえで、脱原発社会・脱成長社会をどう創っていくかについて、パネリストの皆さんにそれぞれの立場から提案いただき、議論したいと思います。

なお、このシンポジウムは、7月に刊行された「脱原発社会を創る30人の提言」(池澤夏樹・坂本龍一・池上彰ほか、コモンズ刊)の出版記念を兼ねたものです。

共催

コモンズ

特定非営利活動法人 アジア太平洋資料センター(PARC)
法政大学 ポアソナード記念現代法研究所

お申込・お問合せ

特定非営利活動法人 アジア太平洋資料センター(PARC)
〒101-0063 東京都千代田区神田淡路町1-7-11 東洋ビル3F
TEL.03-5209-3455 FAX.03-5209-3453

E-mail: office@parc-jp.org

http://www.parc-jp.org/

Twitter: http://twitter.com/parc_jp

電話・FAX・メールなどであらかじめお申込みください。

※ウェブからもお申込みいただけます。

2011年9月23日(祝・金) 13:30~17:00(開場13:00)

参加費 800円 ※予約優先(定員180名)

会場: 法政大学 富士見キャンパス

ポアソナードタワー26階 スカイホール

〒102-8160 東京都千代田区富士見 2-17-1

JR総武線 市ヶ谷駅または飯田橋駅下車 徒歩10分

都営新宿線 市ヶ谷駅下車 徒歩10分

都営大江戸線 飯田橋駅下車 徒歩10分

東京メトロ 有楽町線 南北線 市ヶ谷駅または飯田橋駅下車 徒歩10分

東京メトロ 東西線 飯田橋駅下車 徒歩10分



脱原発社会は可能だ

講演者・パネリスト プロフィール



小出裕章 (こいで・ひろあき) さん

1949年、東京都生まれ。東北大学工学部原子核工学科卒業後、同大学院修了。1974年から京都大学原子炉実験所助手（現在は助教）。愛媛県の伊方原発訴訟では住民側証人をした。著書に、『原発のウソ』（扶桑社新書、2011年）、『放射能汚染の現実を超えて』（河出書房新社、2011年）、『隠される原子力 核の真実』（創史社、2011年）など。



吉原毅 (よしわら・つよし) さん

1955年、東京都生まれ。1977年、慶應義塾大学経済学部を卒業し、城南信用金庫に入庫。懸賞金付き定期預金など新商品の開発や広報などに従事する。企画部長、常務理事・市場本部長などを経て、2010年より理事長。城南信用金庫は東京都東南部と神奈川県東部に計85店を有し、業界第2位の規模。



瀬瀬あや (はなぶさ・あや) さん

1974年、東京都生まれ。自由学園卒業。2001年ポレポレタイムス社に入社し、映画『アレクセイと泉』（2002年）の製作・配給・宣伝に携わる。映画『ナミイと唄えば』（2006年）のプロデューサーを経て、フリーに。『祝^{イヴ}の島』（2010年）は監督としての最初の作品。



明峯哲夫 (あけみね・てつお) さん

1946年、埼玉県生まれ。北海道大学大学院農学研究科博士課程中退。消費者自給農場「たまごの会」の創設運動に参加して以来、一貫して自給にこだわり続けるとともに、人間と環境、人間と生物のあるべき関係について考察してきた。著書に、『ぼく達は、なぜ街で耕すか』（風涛社、1990年）、『都市の再生と農の力』（学陽書房、1993年）、『街人たちの楽農宣言』（編著、コモンズ、1996年）など。